



隊友四街道支部便り



令和6年10月号 支部事務局
担当：奥村（090-8728-7838）

千葉県隊友会による下志津駐屯地「鎮の庭」整備に多くの支部会員が参加！



参加会員と現役自衛官の皆さん
(四街道支部から21名参加)

支部は9月28日(土)、千葉県隊友会が令和6年度事業計画に基づき実施している自衛隊殉職隊員千葉県追悼式会場の下志津駐屯地「鎮の庭」整備に多くの会員が参加しました。本整備事業には県本部及び7コ支部から合計37名が参加するとともに下志津駐屯地所在部隊の現役自衛官約120名も共に活動して頂くことにより、隊友会と自衛官との交流を深める絶好の機会にもなりました。そして、このような事業そのものが隊友会の会勢拡大につながると

確信しています。当日、予報ではかなりの悪天候が予想されましたが、蒸し暑さを感じながらも雨に打たれるようなことはなく「絶好のコンディション」の下、殉職された隊員への追悼と感謝の気持ちを抱きつつ心地よい汗を流し無事に整備が完了しました。

なお、追悼式は10月5日(土)に厳粛に無事開催されました。

ヒゲの隊長
参議院議員
佐藤正久メルマガ



※支部会員の有志皆様に佐藤議員のポスター設置をお願いしています。1枚でも結構ですのでご協力宜しくお願い致します。

9月25日、中国軍が大陸間弾道ミサイルICBMを発射した際の画像を公開しました。今回のICBMは、米国全土の大半を射程に収める弾道ミサイルという見方が広がっています。アメリカや対中国のこの連携を強める関係国を牽制する狙いがあるとも指摘されていますが、中国軍はなぜ今、44年ぶりとも言われているICBMの発射するのか疑問が生じます。10月1日の建国75周年に向けた国威発揚なのか、社会的には米国全土を攻撃できるという誇示なのか。今回のミサイルはDF31Gタイプとみられていて、3段式の固体燃料推進方式で2017年7月の閱兵式で初公開され、米国の現役ミサイルを回避する能力があり、車両運搬の改良によってどこでも発射が可能とされています。中国は現在、約550発の核弾頭を保有し、2030年までには核弾頭1000発を超える勢いで核の増強を図っています。その運搬手段として、地上発射、水中発射、空中発射のミサイルの開発、大気圏外から大気圏内への再突入技術を維持発展することは必至です。今後、潜水艦発射のミサイル実験も砂漠相手ではなくて、太平洋に向けて撃つ可能性も十分あると思います。今回はアメリカにも通報があったことを感謝するというふうに言っていますけれども、実態はアメリカに向けて撃つミサイルです。アメリカ以外に打つ場所がありませんので、いくら事前にこの通報されたと言っても気持ちのいいものではないと思います。

皆様へのご連絡とお願い！

◎令和6年度新規事業の「四街道支部新年交流会」を次の予定で開催します。新年を多くの会員の皆様とお祝いしたいと思いますのでご出席宜しくお願い致します！

- ・時期及び場所：令和7年1月19日(日) 1200～1400 四街道市文化センター
- ・ご案内予定：支部会員、特別会員、来賓、現職自衛官(下志津駐屯地司令、地本長)
- ※来賓のご挨拶に加え新入会員を紹介致します。新入会員皆様ご出席をお願いします！
- ・総会当日、0900～会場準備等を実施します。多くのご支援を期待しております。

次回の役員会：12月21日(土) 0900～1000

※大日蓮橋台区自治会館